



講師コラム「エネルギーの明日」

エネルギー・環境問題の専門家に、毎回、様々な角度からエネルギーの視野を広げるお話を伺います。

Vol.4 エネルギー問題にも 賢い消費者目線を



消費生活アドバイザー
石窪 奈穂美 氏

私たちはエネルギー問題をつい難しく考えがちです。けれどもエネルギー問題も、生活に身近な問題も、基本的な考え方に大きな違いはありません。大切なことは消費者として問題にどう向き合うかという姿勢にあります。今回は消費生活アドバイザーとして活躍している石窪奈穂美氏に、エネルギー問題について考えるときに気をつけたい消費者の意識について伺いました。



エネルギー問題を考える視点「3E+S」

私はエネルギー問題を考える際の視点として「3E+S」が重要だと思っています。これは各視点の頭文字を取ったものです。

まず大切なことは安定供給(Energy Security)です。エネルギーの量が足りなくなると人々がパニックを起こし、オイルショック時にトイレットペーパーの買い占めに走ったような状況になってしまいます。また電気などの値段が高くなると生活に影響が出たり、企業も経営に困ることになるので、経済性(Economic Efficiency)も重要です。近年では地球温暖化など環境に配慮した環境性(Environment)も大切になってきました。この3Eに加えて、安全性(Safety)という視点があり、これはエネルギー問題の大前提になるものだと考えています。

この「3E+S」は、どれが欠けてもエネルギー問題をうまく解決できません。安定供給のためにコストを上げては生活ができませんし、コストのために安全性を犠牲にすることも許されません。すべての項目のバランスがとれていることが重要なのです。最近のエネルギー問題はどれか一つの視点に偏って議論されることが多く、もっと幅広い視野で議論する必要があると考えています。



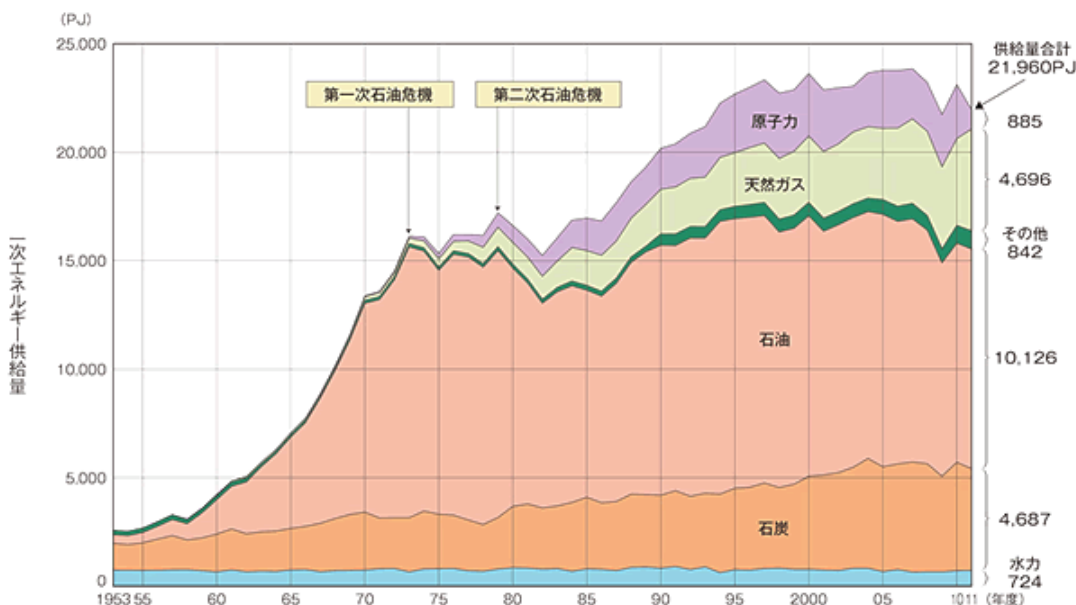
時代とともにエネルギー状況も変化

エネルギー問題は時代とともに変化してきました。高度経済成長の時代は安定供給が何より重要な課題だったため、供給量を増やすことが先決でしたが、オイルショック以降(1973年)は使用するエネルギー資源の中身について考える時代になりました。エネルギー源を石油だけに頼ったり、輸入を中東だけに頼ることの危険性から、天然ガスや原子力など多様なエネルギー源が活用されるようになりました。

京都議定書の採択(1997年)以降は環境問題に、よりスポットが当てられるようになり、各国で温室効果ガスの削減に努力するようになりました。よく原子力発電と再生可能エネルギーが対比されますが、当時はともに重要な電源として温室効果ガスの削減目標を達成するという位置づけだったはず。どちらも日本にとって必要なエネルギーなのです。

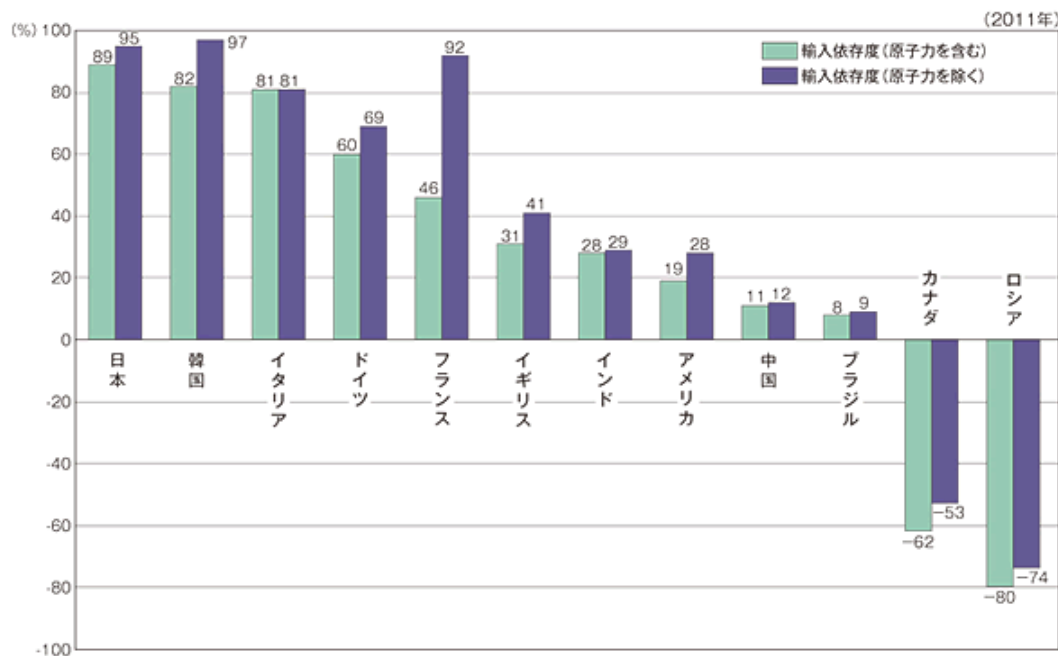
エネルギーの状況は変化しても、決して変わらないことがあります。それは日本の地理的状況です。日本は島国であり、エネルギー資源に乏しい国です。そのことを踏まえた上で、より長期的な視点、全体を俯瞰した視点で考える必要があります。世界には一つとして同じ状況の国はありません。エネルギー問題についても日本における最善の方法を議論すべきだと思います。

日本の一次エネルギー供給実績



(注) 1PJ (=10¹⁵J) は原油約25,800kℓの熱量に相当(PJ:ペタジュール) 出典:原子力・エネルギー図面集2014

主要国のエネルギー輸入依存度



(注) 下向きのグラフは輸出していることを表す 出典:原子力・エネルギー図面集2014

エネルギー問題は難しい問題か?

東日本大震災以降、多くの方がエネルギー問題に興味を持つようになりました。そのこと自体は良いことで、一般消費者にエネルギーについて考えてもらう良い機会だと思います。けれども多くの方が不安や恐怖心を持つだけで終わっている場合も少なくないようです。また情報の入口も限られていることが多く、メディアなどの一方的な情報を受け取るだけになっています。



エネルギー問題も、モノの見方や考え方は他の消費者問題と変わりありません。例えば商品を販売する場合、企業は商品を買ってほしいためにメリットを強調した情報を提供しがちです。けれども物事には必ずメリットとデメリットがあり、メリットだけということはありません。誰が何のために出している情報なのか冷静に考え、批判的に読み解く力が消費者には必要なのです。

また、自分で情報を得る努力も必要です。企業などが設置している商品相談センターは苦情を寄せるだけでなく、商品や使い方についての質問をしてもいいのです。エネルギーを含めた消費者問題では、一つのメディアや同じような情報だけを信じるのではなく、さまざまな視点から学び、自分で判断する姿勢が重要です。

賢い消費者になるためには

インターネットが発達した現代社会は情報があふれ過ぎていて、公平で正しい情報を見つけることが難しくなっています。そのため「売れ筋なら間違いないだろう」とランキングに頼ったり、単純に声の大きい方になびいたりします。情報に対してもっとセンシティブになり、同じ出所の情報ばかりを信用しないことです。



また自分の目で実際に見て、感じることも重要です。身近に見学できるエネルギー関連の施設があれば、ぜひ積極的に足を運んでみてください。現場を見て、そこにいる人たちに話を聞けば、新聞やテレビ、ネットなどでは知ることのできない情報にふれることができますので、必ず得るものがあるはずです。

さらにリスクに対しても不安に思うばかりでなく、どの程度のリスクなら許容できるのか、お互いが歩み寄って話し合うことが大切です。特に一般消費者と専門家の考えるリスクにはズレがあり、そこを埋めるリスクコミュニケーションが必要とされます。物事にはメリットとデメリットがあることを理解し、感情的にならず、冷静に聞く耳を持って考えるべきです。



日本における良質な電力供給

日本はエネルギー源の90%以上を外国からの輸入に頼り、エネルギー自給率は高くありません。それにも関わらず安定した電力の供給を実現しています。いつでも、どこでもすぐに電気がつき、世界を見渡しても停電が非常に少ない国です。病院などには生命維持のために電気が必要な人もいて、停電になると命の危険にさらされます。電気は暮らしの中をぐるぐると回っている血流のようなもので、これが止まってしまうと生活に大きな影響が出ます。

こうした良質な電力供給の背景には、どんな努力や活動があるのか考えてみるべきでしょう。私たちは自分にとって都合のいい情報だけでなく、ものごとの両面をきちんと見る必要があります。その上で自分の行動がどう影響するのか考えるべきです。

現代社会ではさまざまな課題のバランスをとる必要があり、消費者の個人的な私益だけでは社会を維持していきません。お互いを思いやるパートナーシップ(共益)、地域や国、社会の利益を考えるシチズンシップ(公益)、さらには地球規模での環境を考えるグローバルシチズンシップ(地球市民益)といった視点が必要です。とりわけエネルギー問題は国レベル、あるいは地球レベルの大きな問題です。視野を広げたバランス感覚を身につけてほしいと思います。